



221号／1957年11月号

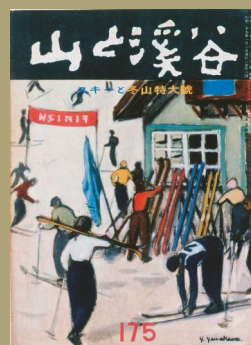
1939年の54号で初登場。合計57回は、イラストとしては2番目に登場回数が多い。東京美術学校在学中から登山に親しみ、58年には深田久弥らとヒマラヤ旅行を行なっている。65年に中央アンデスでクレバスに落ち、凍傷により死亡。最後の表紙になったのは60年の252号。奥秩父の石楠花をあしらったものだった。※主な登場号／54～218号のうち27回、221～252号（238号除く）は連続



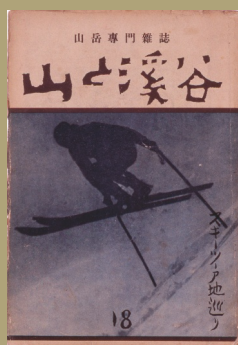
73号／1942年5月

の歩み
1000号
山と溪谷

Time Machine



175号／1954年1月号



18号／1933年3月

創刊直後から60年代半ばまで、冬は「スキー」の題材も多かった

昔
の「山と溪谷」の表紙を見ると、冬はスキーを題材にしたものが多いことに気がつく。表紙だけでなく編集ページもスキーの割合が高く、山スキーだけでなくゲレンデスキーを扱っている記事も多い。初めてスキーが登場した4号の編集後記には川崎吉蔵が「とうとうスキーシーズンが迫ってきた」と記しており、スキーに対する並々ならぬ情熱が感じられる。当時のスキーは自力で登って滑る遊びであり、登山の一ジャンルだった。写真左の175号の表紙は草津温泉のゲレンデ。スキーがレジャーとして定着するのはリフトが整備されて以降で、60年代のスキー場の急増に合わせるかのように、335号（1966年11月）を最後にスキー特集はなくなり、それ以後は『臨時増刊スキー特集（後の「skier」）』に移行されている。